高等部 国語科　一題材の実践事例

題材名：『クラフト工房フトク』で、手順の前後関係や様々な条件を読み取り、紙細工を完成させよう　　**授業者：半田 郷子**

学習指導要領の段階と内容

中学部 2段階　C 読むこと

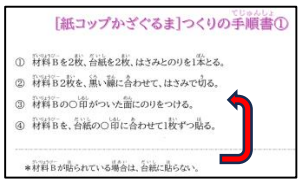
- 知 ・ 技：イ（ア）考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること
- 思・判・表：ウ日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句文章、表示などの意味を読み取り、行動すること
- 学　　び：言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う

題材目標

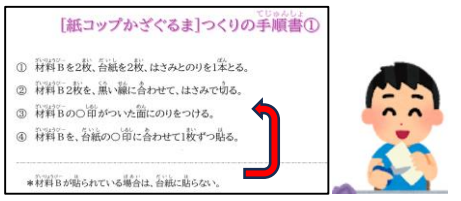
知 ・ 技	『クラフト工房フトク』で、紙細工を作る時、注意書きと手順との関係がわかり、注意書きの条件[確定＋必要条件(～したら、～する)、場合＋必要条件(～の場合は、～する)、場合＋禁止条件(～の場合は、～してはいけない)]がかかる手順を線でつなぎ、すべき行動を記入する
思・判・表	様々な紙細工の手順や注意書きを読む時、様々な位置に書かれた注意書きと関係する手順を考え、注意書きの条件が関連する手順とすべき行動やその有無を判断し、手順書の通りに紙細工を作る
学　　び	手順と注意書きとの関係を考えて紙細工を作る課題に繰り返し正しく取り組む

教材と仕組み

教材名：『クラフト工房フトク』



①手順書を読んで、注意書きと関連する手順に矢印を引く。



②手順書を読みながら、紙細工を作る。

③規格通りの紙細工が完成する。

観点別評価

知 ・ 技	「赤の丸の紙をとってください」などの手順や「赤がない時はピンクの紙をとってください」などの注意書きとを矢印でつないだ後、その関係に基づいたすべき行動を記入することができた。
思・判・表	「確定＋必要条件(～したら、～する)」「場合＋必要条件(～の場合は、～する)」「場合＋禁止条件(～の場合は、～してはいけない)」の注意書きの条件に応じて、手順書の通りに紙細工を作ることができた。
学　　び	様々な注意書きのある手順書の内容に応じて紙細工を作る課題に繰り返し正しく取り組む姿が見られた。

関連する授業づくりの手順

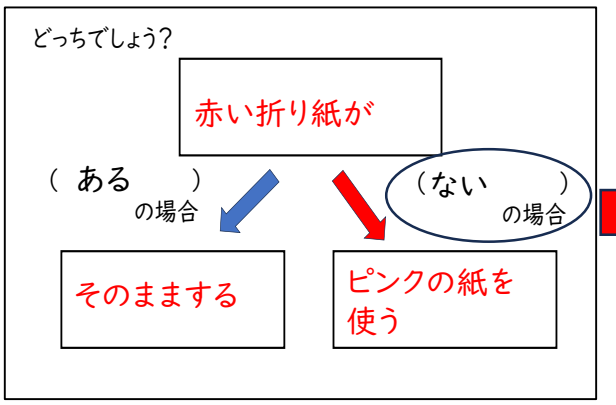
- 知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる
- 教材の仕組みを決定する
- 学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる
- R研で毎時間の授業の評価・改善

ポイント　注意書きの条件と手順の内容との関係を整理するための教具の工夫

教具「どっちでしょう？」を用いて、注意書きの内容を整理して記入し、すべき行動を選択できるようにする

<注意書き>
赤い折り紙がない時は、ピンクの紙を使ってください

どんな時、どうすればよいか整理できなくなっちゃった！



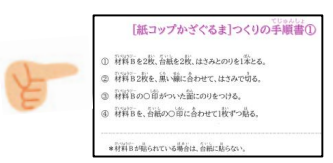
視覚的に条件を整理することで、判断しやすくなった

材料に赤い折り紙がないから、ピンクを使えばいいんだな。

ポイント　友だちとの対話を通じて理解を深めるための学習活動の工夫

違う色の線を切っていると思うよ！手順書の②番と違うんじゃないかな？

ぼくと、〇〇さん切ったところが違うなぁ



- ○ 完成した紙細工を友だちと見比べる
- ○ 紙細工の出来具合が違う時、友だちと手順や注意書きを読み直し、考え方を説明し合う。
- ○ 注意書きと手順の関係を整理し直すことで理解を深める

考察

「きちんと読む必要性」を感じることができる教材を考える

〇どんな教材にするか
文を正しく読むときちんとしたものが出来上がる仕組みにすることで、文を読む必要性を感じて学習に取り組むことができるのではないかと考えた。

手順書を読み取れているかどうかの正誤が明確になったことで…

・手順の前後関係に目を向けて学習に取り組むことができていた。
・間違えた箇所とその原因を具体的に捉えることができた。

〇まとめ
教師が正解不正解を伝えるのではなく、生徒自身で正誤判断をする仕組みを取り入れることの重要性を感じた。今後も生徒自身で正誤判断ができる仕組みを取り入れて実践をしていきたい。